vinetur

中国の外食チェーン、10月の国産牛肉価格が20.7%上昇

調達レポートによると、野菜価格は17.3%下落し、社員食堂や低価格帯チェーンのコスト負担が和らいだ

2026年11月24日（火）

Hongcan Industry Research Instituteと複数の業界団体が11月23日（月）に公表した月次調達レポートによると、中国の外食事業者は10月、食材コストの動きが大きく分かれた。国産牛肉の価格が高止まりする一方、野菜価格は下落した。レポートは、この価格差がメニューコストに異なる影響を及ぼすため、外食チェーンにとって重要だと指摘した。牛肉は依然として高値で、輸入冷凍牛肉も購入を抑えるほど高かった一方、野菜価格は季節的に通常の低い水準へ戻った。

「食品・外食チェーン企業向け月次調達参考資料」と題したレポートによると、10月の国産牛肉の平均価格は1キログラム当たり74.16元だった。9月比で3.68%、2025年10月比で20.7%上昇した。Hongcanによると、国慶節（建国記念日）の連休後に需要が落ち着いたものの、供給は引き続き逼迫していた。飼養頭数の削減が以前から進んでいたこと、生産者が出荷に慎重な姿勢を続けていたこと、出荷可能な大きさに育った牛が不足していたことから、食肉処理場は高値での調達を続けざるを得なかったという。需要面では、連休需要の一部が前倒しされた一方、処理頭数は比較的早く通常水準に戻り、市場需要の底堅さが表れたとした。

外食業界について、レポートは国産牛肉と輸入牛肉で状況が分かれていると指摘した。ブラジル産牛肉の部位別価格は10月、大半で下落し、品目に応じて0.19～1.40%の値下がりとなった。ただし、外食事業者の積極的な買い付けにはつながらなかった。Hongcanによると、9月以降、中国へのブラジル産牛肉の入荷は減少し、港湾在庫は積み増しから取り崩しに転じた。それでも輸入牛肉価格は2年ぶりの高値に近い水準にあり、外食・食品加工の川下企業は高コストの冷凍牛肉の購入に消極的だったため、価格全般の上昇は限られた。

レポートは、11月の生牛市場では供給の引き締まりと季節的な需要増が価格を押し上げ、価格水準が上昇すると予想した。生牛の取引価格は1キログラム当たり32.5～34.5元の範囲になると見込んだ。牛肉の比重が大きいメニューを展開する外食チェーンでは、ほかの食材の一部が値下がりしても、コスト圧力が続くことを示唆している。

鶏肉とアヒル肉の状況は異なっていた。10月の白羽肉鶏の平均価格は1斤（500グラム）当たり3.07元で、9月比では2.68%上昇したものの、2025年10月比では9.44%下落した。Hongcanによると、月初は食肉処理場の採算が比較的良く、生鳥の供給が限られるなかで積極的に買い付けたため、低水準から価格が上昇した。10月後半は製品の販売が平年並みにとどまり、処理場の採算が縮小。一部

の加工業者が処理量を減らしたことで、価格はおおむね安定した。11月は供給が限られているため、ブロイラー価格は低水準からやや上昇する可能性があるという。

アヒル肉市場は軟調だった。Hongcanによると、10月は生体アヒル、種卵、ひな、丸鴨などの加工品を含め、食肉用アヒルのサプライチェーン全体で大半の価格が下落した。需要は低迷し、顧客は慎重に買い付け、市場の動きも過去数年に比べて鈍かった。上流の飼育・食肉処理部門は赤字が続いており、供給に比較的余裕がある一方で川下の需要が十分に回復していないことから、11月も市場は軟調に推移する可能性が高いとした。

豚肉市場も引き続き下押し圧力を受けた。レポートが引用した卓創資訊（Zhuochuang Information）のモニタリングによると、10月の全国平均の生豚取引価格は1キログラム当たり9.72元で、9月比8.93%、2025年10月比15.57%下落した。Hongcanによると、国慶節の連休中は供給が一時的に引き締まり、価格を下支えしたが、生産者が出荷を再開して市場に出回る生豚が豊富になると、その効果は薄れた。需要は供給に追いつかず、価格は月の大半で下落した。10月後半には、月間販売目標の達成が必要な生産者も出荷を急いで続け、下落圧力が強まったという。

食用油では、大豆油は高値圏で変動した。10月28日時点で、中国の一級大豆油の月間平均スポット価格は1トン当たり9,096元。9月から45元（0.49%）下落した一方、前年同月比では634元（7.49%）上昇した。Hongcanによると、中国が米国産大豆の購入を続けていることや、生産者が価格を下支えしようとしていることが支援材料となったものの、需要の弱さ、国際情勢の不透明感、ブラジル通貨の下落が相場の重荷となった。落花生油は比較的底堅く推移した。山東省では、一級圧搾落花生油（バルク）の工場出荷価格の月間平均が1トン当たり14,450元となり、9月比0.27%、前年同月比0.19%上昇した。レポートは、原料価格の低下による恩恵は限られ、企業は冬場の需要回復を見極めながら、価格をおおむね据え置いているとした。

外食事業者にとって、野菜は最も明確なコスト軽減要因となった。レポートが引用した農業農村部のモニタリングによると、28品目の野菜の全国平均卸売価格は10月、1キログラム当たり4.25元だった。9月比で7.6%、2025年10月比で17.3%下落した。Hongcanは、供給が豊富だったため、価格は季節に沿った通常の下落基調に戻ったと説明した。主要な秋野菜の産地では天候がおおむね良好で、黄淮海地域や長江流域で収穫が進んだ。白菜、白大根、カリフラワーなどがまとまって市場に出回り、供給が増えて価格を押し下げたという。

野菜価格の下落は牛肉市場と対照的であり、このレポートが外食業界にとって重要な理由を示している。炒め野菜を主力とする店舗や社員食堂、低価格帯チェーンでは仕入れコストの一部が軽減される可能性がある一方、牛肉中心の業態は国産・輸入双方の供給コストによる圧力に引き続き直面する。レポートはこうした食品価格の動きをより広いインフレ動向と関連づけ、中国の10月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比0.7%上昇し、9月比では横ばいだった一方、食品価格は前年同月比2.9%、前月比1.0%下落したと伝えた。

Hongcanは、11月の野菜価格は低水準を保つものの、さらなる下落余地は小さくなっていると予想した。寒波や霜など、露地野菜の生産や、南部の産地から北部市場への輸送効率に影響する天候の急変に、卸売業者や外食事業者は注意を払うべきだとしている。